

TS 国際会議「日本における翻訳学の行方」

Translation Studies in the Japanese Context

* 欧米で誕生し勢いよく展開しているトランスレーション・スタディーズを日本の文脈で考える日本初のTS国際会議。グローバル時代の中で「他者」とのコミュニケーションはいかにして可能になるのか？国内外のTSと日本学の最先端をいく幅広い研究者たちの発表を通じて、学際的な学として日本以外の各国で注目を集めているTSを知るチャンスです。

【同時通訳がつきます】

招待講演者

ヘルマンズ・テオ (イギリス ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジ)

◆ 講演テーマ：「翻訳者、声と価値」

水野 的 (日本 立教大学)

◆ 講演テーマ：「明治・大正期の翻訳規範と日本近代文学の成立」

真島 一郎 (日本 東京外国語大学)

◆ 講演テーマ：「力 chikara の翻訳ー人類学と日本初期社会主義」

坂井セシル (フランス パリ第7大学)

◆ 講演テーマ：「フランスにおける翻訳論の現状と日本文学のフランス語訳をめぐって：川端康成から村上春樹に至る文化的アイデンティティの構築プロセスについて」

水野真木子 (日本 金城学院大学)

◆ 講演テーマ：「コミュニティ通訳の現状と課題」

若林ジュディ (アメリカ ケント州立大学)

◆ 講演テーマ：「日本における翻訳研究ーより広い視点から」

* パネルテーマは「文学」「思想と歴史」「文化人類学」「オーディオビジュアルとメディア」「ポストコロニアルと権力」「コミュニティ通訳」の6つ、そして、世界12カ国から総勢30名による口頭発表と18組によるポスターセッションが催されます。プログラムの詳細は裏面に。

日時：2010年1月9日(土)・10日(日)

会場：立命館大学京都衣笠キャンパス創思館1階カンファレンス・ルーム

【主催】立命館大学大学院先端総合学術研究科

実行委員会：佐藤=ロスベアグ・ナナ、渡辺公三、ポール・デュムシェル

【共催】立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点

【詳細】<http://translationstudies.net/tsc2010/> (事前申し込みやプログラム等の詳細はこちらをご覧ください)

同時通訳が必要な方は12月6日

までに事前申し込みが必要です

※立命館大学関係者と発表者以外の方からは参加費として1500円をお願いしております。

本国際会議は立命館大学「研究の国際化推進プログラム」の助成を受けています

R
RITSUMEIKAN

お問い合わせ先

TSC2010Rits 国際会議事務局 E-mail: TSC2010-Info@Rossberg.net

立命館大学大学院先端総合学術研究科 TEL: 075-465-8348

※お願い：駐車場がございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

ars vivendi

「日本における翻訳学の行方」プログラム

2010年1月9日(土)

8:00 から受け付け

8:45-8:55=「歓迎の挨拶」立命館大学学長 川口清史教授

9:00-9:45【オープニング講演】ヘルマンズ・テオ（ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジ）「翻訳者、声と価値」

10:00-11:30=パネル1「文学1」

1. テプロヴァ・ナターリヤ（コンコルディア大学）「翻訳における言説から翻訳学まで」
2. ヘンニチュック・ヴァレリー（イーストアングリア大学）「翻訳における紫式部と清少納言を読む」
3. サバス・美苗（ブリッジウォーターカレッジ大学）「和歌の翻訳の難しさ：狂女の心を映し出すレトリック」

11:40-12:20【招待講演】水野的（立教大学）「明治・大正期の翻訳規範と日本近代文学の成立」

13:10-14:40=パネル2「思想と歴史」

1. 岡山恵美子（研究者）「白話から読本まで—唐通事岡島冠山の軌跡」
2. 内山明子（クイーンズランド大学）「福沢諭吉の西洋思想の翻訳と受容—ポストコロニアル翻訳理論を視座に」
3. 武田珂代子（モンテレー国際大学）「日本語関連の翻訳研究—最近の動向」

14:50-15:30【招待講演】真島一郎（東京外国語大学）「カ chikara の翻訳—人類学と日本初期社会主義」

15:30-16:30=パネル3「人類学」

1. 佐藤＝ロスベアグ・ナナ（立命館大学）「文化を翻訳する—アイヌの口頭伝承から日本語へ」
2. サルズ・ジョナ（龍谷大学）「伝統を伝達する通訳の試み：能の稽古を同時通訳する」

16:50-18:20=パネル4「オーディオヴィジュアルとメディア」

1. 稲生衣代（青山学院大学）「日本の放送メディアにおける AVT」
2. 山下英愛（立命館大学）「日本における韓流ドラマ翻訳とジェンダー—冬ソナを中心に」
3. オヘイガン統子（国立ダブリン・シティ大学）「ゲームの海外移植—創作翻訳により生まれ変わる日本のテレビゲーム」

2010年1月10日(日)

9:00-9:40【招待講演】坂井セシル（パリ第7大学）

「フランスにおける翻訳論の現状と日本文学のフランス語訳をめぐって
—川端康成から村上春樹に至る文化的アイデンティティの構築プロセスについて」

9:45-11:15=パネル5「文学2」

1. スミス・ジョーダン（UCLA）「翻訳スケープを比較する—西欧の言語を横断する大江健三郎」
2. クリーマンユアン・フェイ（コロラド大学）「翻訳とアジアの都会主義のトランスカルチャー消費—中国語圏における村上春樹」
3. 日地谷＝キルシュネライト・イルメラ（ベルリン自由大学）「世界文学としての日本文学」近現代日本文学におけるブリトランスレーションが意味するもの」

11:25-12:55=パネル6「ポストコロニアリズムと権力」

1. カレン・ベヴァリー（愛知淑徳大学）「移行する文脈における日本語—日系カナダ人の日本語から日本の日本語への翻訳について」
2. 李宣妮（慶熙大学）「韓国における日本文学の『翻訳生産』研究—歴史小説『徳川家康』を中心に」
3. ガブラコバ・デニツァ（香港市立大学）「浮遊する列島／漂流する理論：近現代日本におけるポストコロニアル批評理論と翻訳をめぐる問い」

13:50-14:30【招待講演】水野真木子（金城学院大学）「コミュニティ通訳の現状と課題」

14:35-16:05=パネル7「コミュニティ通訳」

1. 飯田奈美子（立命館大学）「中国帰国者の支援制度からみるコミュニティ通訳の現状と課題」
2. 木田バルピン（岐阜聖徳学園大学）「日本における法廷通訳人の試み—通訳人の役割とは何か？」
3. 毛利雅子（南山大学）「日本の法廷における言語等価性維持の課題—被告人母語が主要外国語でない場合」

16:15-17:15【院生ワークショップ】とお茶・お菓子（創思館 403—404）

1. 南條恵津子（神戸女学院大学）「明治期における異化的翻訳の受容と教科書」
2. ミード・ラッセル（マンチェスター大学）「日本とイギリスにおける学術工学—ランキン教科書の翻訳」
3. 斉藤美野（立教大学）「文学翻訳における異質性」
4. パドアン・達磨（ヴェネツィア大学／慶応義塾大学）「葛城の神仏習合神話—言説翻訳の一事例」

16:15-17:15【ポスターセッション 発表者 18 組】とお茶・お菓子（創思館 401—402）

17:30-18:10【クローキング講演】若林ジュディ（ケント州立大学）「日本における翻訳研究—より広い視点から」

18:10-18:50【全体討論】【司会】渡辺公三（立命館大学）佐藤＝ロスベアグ・ナナ（立命館大学）